

シンポジウム 1 「四半世紀の感情研究 —その光と影—」

話題提供者： 中村 真 (宇都宮大学)
大平英樹 (名古屋大学)
岩永 誠 (広島大学)
大坊郁夫 (東京未来大学)

司会者： 内山伊知郎 (同志社大学)

企画者： 内山伊知郎 (同志社大学)
鈴木直人 (同志社大学)

感情心理学会は 1992 年に設立されました。学会が設立された当時、Ekman や Plutchik, Frijda, Izard, Campos などが円熟期に達し、Ekman と Russell の論争、Lazarus と Zajonc の論争などが華々しく行われ、Scherer, Oatley, Lang, Buck そして Caccioppo 等々の研究が誌上をにぎわし、感情研究が新しい時代に入ったことを思わせる時代でありました。また、感情心理学の講義を開講している大学は皆無でした。しかしながら、この当時から、感情研究を行っていた研究者で、現在の感情心理学の状況を予想し得た研究者はどれだけいたのでしょうか。コンピュータの進歩に伴う新しい感情研究の方法や測定機器、解析方法の開発など、当時は考えもしなかったような方法が当たり前のように使われるようになってきました。例えば、脳のイメージング技法はその存在は知ってはいましたが、まだ使いこなすというレベルにはほど遠い状態でした。そこで、設立時に新進気鋭の 30 歳、40 歳代の研究者であり、今や日本の感情研究をリードして下さっているシンポジストの皆さんに『それぞれの領域を振り返っていただき、25 年前に現在の状況を予想し得たのか、どのような点が 25 年前と変わってきたのか、今後はその領域はどうなっていくのか。どのように研究したら、あるいはどのように考えていったらよいのか』などについて、若い研究者に向け大所高所から自由に語っていただこうと考え企画した次第です。この話題提供で、学会員の皆さまの研究テーマに関してアイデアやヒントが与えられれば幸いです。なお、上記のシンポジストの方々以外にも、是非この方に話をしていただきたいと名前が浮かぶ方々も大勢いらっしゃいます。時間の都合で、上記の方々にはさせていただきました。失礼のほどお許しください。